

区民会議 第2のテーマ「地域における子育て応援体制づくり」

A 現場の実態調査

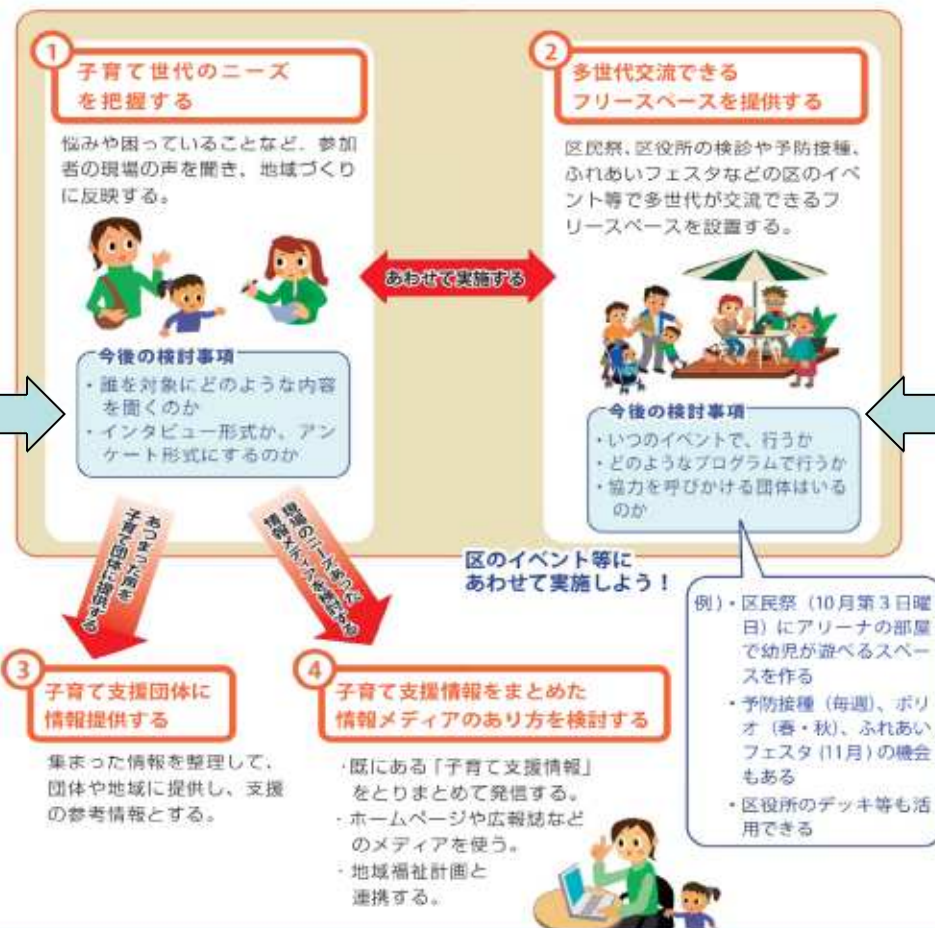
- A-1 子育て世代などの区民のニーズの把握
- A-2 活動団体のニーズの把握
- A-3 各町内会のイベントの取組状況、呼びかけ方法の調査

E 活動団体、人材、子ども支援の取組の情報整理と発信

G 様々な主体との連携体制づくり

- G-1 団体同士や個人の連携促進
- G-2 地域の商店や企業との連携促進

区のイベント等の開催時に、①子育て世代をはじめ多世代が交流できるスペースを提供し、合わせて②参加者の現場の声を聞き、子育て世代の支援ニーズを把握する。
集まった情報を整理して、③活動団体や地域に提供し、活動の参考情報としてもらう。
また、④既にある「子育て支援情報」と合わせた情報メディアのあり方を検討する。



B 子育て世代の集会やイベントに参加

F 多様な世代、多主体の交流の場の提供

- F-1 学校との連携
- F-2 老人いこいの家との連携
- F-3 多世代の交流の場の提供
- F-4 父親の子育て参加の場の提供
- F-5 親子の交流の場の提供
- F-6 イベントの活用及び実施

I 就学世代の子どもと地域の関わりづくり

★区の行事等

- (月曜日)1歳児歯科健診:第2
幼児相談:第3
- (火曜日)育児相談:第2・4
幼児職教室:偶月第4
3か月健診:第1・2・3
幼児相談:第1・3
- (水曜日)親と子の歯科予防教室:奇月第2
ちびっ子健康教室第1・3
- (木曜日)1歳6か月健診:第2・3・4
- (金曜日)3歳児健診:第2・3・4
- (その他)ポリオ(9/7,9,13,1610/5.31)
- (イベント)子ども未来フェスタ
健康福祉まつり など

C あいさつ、声かけ運動

D スローガンの作成

H 子どもの安心・安全のための取組み

J ボランティア体験の提供

取り組み内容（分野）		取り組みの方向性	区民会議として何ができるのか
A 現場の実態調査	A-1 子育て世代などの区民のニーズ把握	・区民会議として私たちが出向いて区民の声を聞き、話し合う。 ・区民会議委員には区内の子育てサロンを見学、参加して欲しい。 ・子育て世代にアンケートをとり、現在のニーズを伺い知ることが必要だと思っています。	A-1 ＊サロンで現場の声を聞く。 ・区民会議の委員は、区内の子育てサロンに出向き、参加者の生の声を聞く。（松本） ・まずは何が悩みか困っている事などを聞いてあげるサロンが必要である。（藤嶋） ＊アンケートを行い現場の声を聞く。 ・中原区民の子育て世代の支援ニーズを把握するためにアンケート調査をする。（どの世代が一番支援を必要としているのか）（松本） ・イベント等でアンケートの実施。（藤嶋） ＊井戸端会議のようなホームページで声を集める。普段声を聞けない人の意見を集めること、日常会話の中から集めることが大事！ ・井戸端会議のWEBページを作成し、情報の収集や意見交換ができるコーナーを運営する。まずは子育てのテーマで行政の取り組みなどを発信、イベント情報などを意見交換するなど市民の目線で意見交換する。（稲富） ＊区民会議の委員が、公園等で親子と一緒に遊ぶ。 ・神社、公園で子どもを遊ばせている親子に区民会議委員が積極的に話しかけ、一緒に親子と遊ぶようにする。（藤嶋）
	A-2 活動団体のニーズの把握	・活動団体から、区民会議に求める事を聞く。	A-2 ＊活動団体に調査協力を要請し、具体的に情報を集める。 ・活動団体に、「地域における子育て応援体制づくり」についての調査協力を要請し、活動団体の方々が求めている事柄を具体的に頂戴する。（川崎）
	A-3 各町内会のイベントの取り組み状況、呼びかけ方法の調査	・「町内会連絡協議会」を通して、各町内会で催されているイベントの取り組み状況や町内会への呼びかけをどのように行っているかのアンケート調査を行う。	A-3 ＊アンケートを行い、結果を町内会や関係グループの参考資料にしてもらう。 ・アンケート調査の実施。アンケート調査の実施がキッカケとなって、各町内会の啓発や活性化に繋がってほしいと願っています。（川崎） ・アンケートとまとめを行い、関係グループに活動の参考資料にしてもらう。（芳賀）
B 子育て世代の集会やイベントに参加 （区民会議の委員が所属する子育て支援団体への参加や協力）		・委員が所属する子育て支援団体での活動や区役所の子育て支援事業の開催時に積極的に参加する。または広報をお手伝いする。 ・区役所や市民館で開催されている子育て世代の集会等に参加する。	B ＊区民会議の委員がサロンに出向きお手伝いをする。 ・子育てサロンの現場を見学する場合に「区民会議委員」ですと、わかってもらえる腕章をつける。行政側は委員に一枚宛配布したら良いと思います。区民会議のコミニティをやらないと…。（川崎） ・委員が所属する支援団体の活動開催時に参加もしくは参観させていただく。状況に応じて広報のお手伝いをする。（大下） ・まずは区民会議委員が子供を好きになるように愛情深い人間になるように心がける。（藤嶋） ＊地域のお父さんのニーズを町会が知る手伝いを、区民会議が行う。 ・父親はどこの家でも休日休んでいたいので、父親のかわりになるイベントの男性女性それぞれのグループがあってもいいのではないかと。（藤嶋） ・イベントを多くの人に知らせるため、町会の委員が誘うようにする。町会の子育て団をつくる。今は民生委員、児童福祉委員に任せているが、忙しい人たちのため。（藤嶋）

●実行可能性と※課題

- 子育てサロンへの働きかけ可能（行政）
- ※ アンケートは十分に活用するために内容の検討が必要

- 活動団体の紹介（行政）

- 委員の子育てサロンへの参加の調整は可能（行政）

取り組み内容（分野）		取り組みの方向性	区民会議として何ができるのか
地域・区民・区民会議の取り組み	C あいさつ、声かけ運動	・学校でのあいさつ運動が浸透してきたので、次は公園などで実施してみるのはいかがでしょうか。等々力公園の催し物広場などでイベントが開催されている時などはいかがでしょうか。 ・個人的にも近所のママ、パパに積極的に声かけをしてみたいかな。	C *あいさつ運動を次は幼稚園、保育園で行う。 ・地区民児協等に依頼し、地域の幼稚園又は保育園で「あいさつ運動」を定期的に開催できればとおもいます。（青木）
	D スローガンの作成	・共通意識の確認のためのスローガンを掲げ、ポスターを作成し、子育てにやさしいまち宣言を区民会議で発信する。	D *区民会議がスローガンの募集を行い、子育てにやさしいまち宣言を目につくようにさせる。イベント、駅、検診、小児科、スーパー、サロン、デパートなど目につく所に貼って、知らない人に伝える。 ・子育てにやさしいまち宣言のスローガンを掲げる（ポスターなど）→区民総ぐるみの子育て支援活動へと波及する。（松本） ・スローガン（標語）の募集とポスターの作成、区内全域の掲示。（掲示は、スーパーなどにもお願いする。）（芳賀） ・スローガンを決め、多くのイベントで発信する機会を作る。（大下）
区民と行政の協働の取り組み	E 活動団体、人材、子ども支援の取り組みの情報の整理と発信 ※保育園や学校のつながり以外に情報等を得る機会を持たせられたらよい	・活動団体や人材の情報の整理。 ・子育て支援ネットワーク会議や子ども支援ネットワーク会議の取り組みをわかりやすく説明し、区民に紹介する。 ・色々な機会を通じて現状の取り組みを整理してアピール、拡散する。 ・子育てサロン等の集合の場がまだもれがあるようで、知らない声も時々聞くので、工夫が欲しい。 ・町会など（身近な所）などに出席して紹介してもらおう。	E *民生委員などが訪問するこにちわ赤ちゃん訪問制度を利用してサロンへ勧誘する。 ・子育てサロンに参加されない親子への勧誘としてこにちは赤ちゃん訪問員制度を利用して繰り返し来場の声掛けを行なう。（少なくとも0～3歳児を持つ親子の90％を子育てサロンに導く）（青木） *区民会議は団体ネットワークを活用して、コーディネーターの発掘をしたり、新たな支援者をつくったり、団体をつなぐきっかけをつくる。 ・子育て支援活動の団体・人材の情報を整理し、コーディネーターを発掘育成する。（子育てネットワーク（未就学）、子ども支援ネットワーク（就学児童）を有効活動）（松本） *地域福祉計画と連携して、子育てに関する「広報誌」を発行する。 ・子育てに関係した総合的な「広報誌」の発行の支援。（A-3）のアンケート活用、中原区福祉計画と連携。（芳賀）
	F 多様な世代、多主体の交流の場の提供	F-1 学校との連携交流 ・子育てサロンに中学生に参加してもらい、体験、体感し交流を持つ。 ・学校との連携交流。	F-1 *子育てサロンへの小中高生の参加をうながす。 ・お年寄りには時間が沢山あるので、お年寄りや母親・子どもの仲介になることを区民会議委員の仕事の1つとする。（藤嶋） ・夏休み等に小中高生に対して区内の子育てサロンに参加を呼びかけ、世代間交流をはかる。（松本） ・小学校において、子育てサロンが開催できるよう学校に働きかける。（青木） ・西丸子小学校ですでに総合学習「いのちの授業」で子育てサロンをおこなっている。
	F-2 老人いこいの家との連携	・老人いこいの家（丸子多摩川老人いこいの家は、アクセス、使い勝手が特によい）を月に2回程度、日時を特定して子育て支援に利用できないか。	F-2 *老人いこいの家に保育園児を招くなど、サロンを開催し参加してもらおう。 ・老人いこいの家での開催を提唱（老人パワー・おばあちゃんの知恵の活用。）（芳賀）

●実行可能性と※課題

● 調整可能

● 実施済み
拡充は可能
※ 映像などを使った新たな情報発信

● 事前調整が必要
※ 総合学習などのカリキュラムとして実施できるか

● 保育園児との交流可能

取り組み内容（分野）		取り組みの方向性	区民会議として何ができるのか
区民と行政の協働の取り組み	F-2 多様な世代、多主体の交流の場の提供	F-3 多世代の交流の場の提供 ・ママカフェの考え方をベースに多世代との交流の場づくりを行なう。	F-3 *小中学生など普段のサロンと違う様々な世代との交流の場をつくる。 ・多世代との交流の場（フリースペース）を設ける。（ママカフェのように気軽に参加できる事業を支援団体や企業等に協力依頼をする）（松本）（F-3&Kと重複） ・地域のすこやか会（高齢者の介護予防）に保育園児を招き、参加高齢者との交流を図る。（丸子多摩川老人いこいの家で年2回開催）こすぎっこ保育園（青木） *井戸端会議のようなホームページで声を集め、区民目録の情報を発信する。 ネットは年齢が超えられるのでは。 ・井戸端会議の Web ページを作成し、情報の収集や発信、意見交換ができるコーナーを運営する。まずは、子育てのテーマで行政の取り組みなどを発信、イベント情報などを意見交換するなど市民の目録で意見交換する。（稲富）
	F-4 父親の子育て参加の場の提供	F-4 パパさんサロン開設。	F-4 *パパの参加しやすい日にサロンを開く。 ・年に数回パパも参加しやすい土・日に子育てサロンを開催して、地域との交流を持てるよう支援団体に働きかける。（松本） *おやじの会に協力していただく。 ・現在、対象は小中保護者の“おやじの会”に協力をしていただく。（大下） *イクメン仲間を紹介したり、お父さんを誉める機会をつくる。 ・パパの参加しやすい日程（土・日）での開催を勧める。（イクメン仲間を紹介、積極性の喚起。）（芳賀） *パパサロン開設に向けて区民会議を通して関係機関に働きかける。 ・イクメンがもてはやされている昨今、父親が子育てに関われる環境は、一昔前から比べると断然良くなっているように感じます。が反面、未だどうして良いか分からずにいる若いパパもまだまだ大勢います。学校では『おやじの会』を発足させているところが増えています。会社とか習字室に関係なく関わり合える関係性、保護者／父親というだけの関係性に、違った意味での開放感や安心感を得ているのではないかと思います。そこで、地域力をアップさせる意味でも、パパサロンの開設を積極的に支援する態勢を整えられるよう、区民会議を通して関係機関に働きかける。（川崎）
	F-5 親子の交流の場の提供	F-5 現と子を外に連れ出して公園と一緒に遊ぶように区民委員がしたらどうか。	F-5 *こんには赤ちゃん訪問制度を利用してサロンへの勧誘を行う。 ・子育てサロンに参加されない親子への勧誘としてこんには赤ちゃん訪問員制度を利用して繰り返し来場の声掛けを行なう。（少なくとも0～3歳児を持つ親子の90%を子育てサロンに導く）（青木）（Eと重複）
	F-6 イベントの活用、イベントの実施	F-6 中原区のいろいろなイベントを活用する。 ・コミュニケーションが苦手な子どもたちの協調性、主体性を地域行事や祭礼を通して育てていく。 ・校まつりは中止となったが、子育て支援を基本理念においたイベントを実施できないか（取り組みの紹介の場ともなり、来場者の希望を聞く等今後の対策も検討できる）。	F-6 *区民祭（10月第3日曜）の開催時に合わせて、子育てを応援するPRや、情報発信を行う。合わせてアリーナの部屋で、幼児が遊べるスペースを用意する。 ・区民祭の開催時にPRをする。（大下） ・各団体・企業に対し、地域に提供できる情報の提供と区民会議だよりなどの情報発信の依頼を行なう。（稲富）

●実行可能性と※課題

※ ウッドデッキの活用

● 活動グループとの調整は可能（行政）

※ ウッドデッキの活用

※ 協力体制としてできる方法を考える

● 実施済み
拡充は可能

● 交流の場の調整可能

取り組み内容（分野）		取り組みの方向性	区民会議として何ができるのか
G 様々な主体との連携体制づくり	G-1 団体同士や個人の連携促進	・団体同士や個人の連携・つながりを促進させるための提案や調整。	G-1 *アンケートも利用して情報提供や発信をおこなうなど、団体同士の連携を促進させるための仲介役を区民会議が担う。 ・各団体・企業に対し、地域に提供できる情報の提供と、区民会議だよりなどの情報発信の依頼を行なう。（稲富） ・団体同士の連携の仲介役と運用開始までの支援（異業種間・人数が少ない場合の合体の支援）（芳賀）
	G-2 地域の商店や企業との連携促進	・地域の商店（子どもの人数、年齢でポイントを考慮する＝経済支援）、企業（物割り支援＝子どもの思考力、創造力の向上支援）の協力を得る。	G-2 *商店街に協力してもらいポスター掲示やサロンなどを行う。 ・中原区内の商店街で、事務所を持っている商店会に協力要請し、そこで子育てサロンの実施が可能になる。（川連） ・子育てに困ったらすぐ電話！のポスターを作成し、商店街に掲示を依頼する（川連）
H 子どもの安心・安全のための取り組み		・学童の通学路の安全確保、あいさつ運動、パトロール活動。 ・小学校児童の登下校時の見守り（安全確保）と挨拶の励行。	H *地域に子育てを見守れる体制をつくり、児童の登下校の見守りを強化する。 ・小学校児童の登下校時の見守り（安全確保）と挨拶の励行を定着させるため、学校、町内会・自治会、社協民児協へ働きかける。（青木） *マンションの管理人、町内会、自治会に働きかけて見守り活動をする。 ・学童の登下校時の安全見守り活動、あいさつ運動の参加協力を町内会・自治会・マンション管理人（理事）に働きかける。（松本） *児童の通学にお年寄りをつける。 ・子どもの（小学一年生）の通学にかならずお年寄りをつけるようにする。その組み合わせを区民会議委員、町会がつくるようにする。（藤嶋）
I 就学世代の子どもと地域の関わりづくり		・「子ども達と地域のきずなの大切さ」をテーマにした講演会の開催。（昨年コミュニティスクールの指定校となった上丸子小学校の校長先生にお願いする。）	I
J ボランティア体験の提供		・ボランティア体験の提供。 ・保育士のライセンスをとるために学校に通っている人達を子育ての場所にきて実習してもらい、ボランティアをやってもらえば、将来子育てのリーダー的存在になると思う。	J
K		・子育て支援策の拡充（例えばママカフェの会場拡大に向けた取り組み）など各種団体や企業等にも相談するなど、地域への浸透を図る。 ・子どもに関する相談ことは、区役所子ども支援室の相談窓口につなぐ。	K *子どもに関わる人たちがコーチング力を身につけられるプログラムを作る。 ・子供時代は本当にアツという間に過ぎていきます。将来を担っていくべき子供たちが、心身共に健全に育っていく環境を整えるのは大人の責任。しかし、権利ばかりを主張したり自己中心的な考え方をする大人が増えているのもまた然り。子供は、本当に無限の可能性を秘めています。その可能性を信じ、誉めて伸ばす力量を持った大人が確端に少ない様に感じています。そこで、子供に関わる全ての人達には、コーチング力を身につけられるプログラムを一定期間受講するシステムを構築することが出来ればと考えています。※特に中学校等で部活動の顧問をされている教職員には必須科目と位置づけて欲しい。（川崎） *子ども会を応援する。 ・子供会をもっと区民会議委員が応援するようにする。子供会の役員当番になるのをいやがる母親が多い。時間がとられる、気を遣うという感覚がある。（藤嶋） *WEB ページなど、情報提供の方法を検討する。 ・井戸端会議の Web ページで区民のニーズなど意識調査により収集し、今後の検討課題として検証する。（稲富）
		・子どもたちの居場所づくりと、「子ども文化センター」や「わくわくプラザ」の、利用状況の検証。	

●実行可能性と※課題

● チラシ、ポスターなどの配架による情報発信